

電 力 情 報

NO. 45

平成26年10月30日

東 北 電 力 (株)

9月分の電力需給実績について

1. 電力需要について（表 - 1 参照）

9月分の販売電力量は、59億1,000万kWh、対前年比96.2%の実績となりました。東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、前年に比べ気温が低めに推移したことによる冷房需要の減少などから、2カ月ぶりに前年実績を下回りました。

用途別の実績については、以下のとおりです。

特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）

電灯は、東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、前年に比べ気温が低めに推移したことによる冷房需要の減少などから、対前年比93.2%の実績となり、2カ月ぶりに前年実績を下回りました。

特定規模需要以外の需要の合計では、対前年比92.8%の実績となりました。

特定規模需要（自由化対象のお客さま）

業務用電力は、需要回復の動きが続いているものの、前年に比べ気温が低めに推移したことによる冷房需要の減少などから、対前年比95.1%の実績となり、4カ月ぶりに前年実績を下回りました。

特定規模需要の合計では、対前年比97.8%の実績となりました。

なお、産業用その他電力については、大口電力が大きなウエートを占めており、その概要は以下の参考のとおりです。

[参 考]

大口電力

大口電力は、復興需要や生産回復の動きが続いているものの、一部での生産減や自家発の稼働影響などから、対前年比99.8%の実績となり、2カ月連続で前年実績を下回りました。

2. 供給力について（表 - 2 参照）

9月の発受電電力量の合計は、62億5,000万kWh、対前年比96.8%の実績となり、2カ月連続で前年実績を下回りました。

（自社水力）

出水率は前年を31.1%下回る78.1%の湯水となったことから、発電量は前年を1億2,200万kWh下回る4億5,600万kWhとなりました。

（自社火力）

運転状況の違いなどから、発電量は前年を4億5,300万kWh下回る42億6,500万kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を900万kWh上回る7,900万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では前年を1億200万kWh上回る18億7,600万kWhとなりました。

以 上